
誤来店

oms-Vリープ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

誤来店

【コード】

N0097T

【作者名】

oms・Vリープ

【あらすじ】

む！ 働きたくないでござる！

GWに起こる女子高生の苦悩とは？

「(がっでむ!!)」

四月も半ばを過ぎ、昼にもなれば汗ばむ日も増えてきた。

この町では比較的中規模な広さのこの喫茶店も昼食をとる客と、涼を求める客とで空席がどんどん埋まっていく状況だ。

次から次へと案内・受注・配膳・会計・片付けを繰り返すが、客足はまだ止まりそうにない。

華やかなホールに響かせた……心の叫びは忙しく動き回るショートボブの少女の無理やりな営業スマイルをさらに引きつらせた。

「もー！ 忙しすぎ！」

厨房へ向かう途中でため息交じりに呟く。

「Bセット二つ。日替わりセット一つ、二番テーブルです！」

「あいよ、Bセット2(ツー)、日替わり1(ワン)!!」

承った注文を早口に伝え、注文書をカウンターへ置くと同時に、調理中の店長の威勢の良い声がかウンターを飛び越えホールに響き渡る。

「あい、ナポリタン2(ツー)、六番テーブル!!」

「あ、はい！」

出来上がった料理を受け取り、小走り気味に六番テーブルへと向かった。

「ナポリタンおまちし……」

「はぁ〜い マチコ」

マチコが近づいた先にはテーブル席に四人が座っていた。マチコの表情が一気に青ざめる。

「お、お母さん……」

「バイト頑張ってるねえ……」

マチコの母親の隣ではニヤニヤしながらニワトリが座ってた。

「(よっ、よりにもよって家族で店に来るなんて……!!)」

動揺してはマズイとマチコはすました顔でナポリタンを机に置いた。

「ナポリタンでございます」

「あのさー、マチコ。お母さんねええ、この丹羽にわさんと再婚することに決めたから」

「さようでございますか……ってマジで!?!」

驚いたがすぐさま真顔に戻す。

「(この人の策略に乗ってはダメ! これでは三回目なんだから)」「バイトの職場に家族が現れる。そんな生き地獄状況を彼女は数度経験していた。理由は簡単。母が寂しがり屋だからだ。ちなみに母子家庭。しかも嫌がらせをしてくるので、すぐにクビになる。母はその度『一緒に家で団欒ね』と喜ぶが、マチコとしてはため息の連続だ。

「(私にだって欲しい)ワンピース”ぐらいあるっ!!)」(ちなみに服と宝物をかけてます念のため)

……ってなわけで、マチコは極力無視をすることにした。

「ふん、しぶといね……」母はマチコを見て呟いた。

マチコは勝ち誇ったように立ちさらおうとした。

「ウエイトレスさあ〜ん」

母と対面に座っていたブタがナポリタンに入っていたベーコンをつまんで涙目になっていた。

「(共食いつてことか? 共食いか? しかし、ツッコまん! っというか近所の人まで動員するとわ、母、恐るべし)」

マチコは震えた。

(笹はないの?)

母親の右隣に座っているジャイアントパンダがプラカードをこち

らに向け、置物のようにマチコを凝視している。

「(大熊猫! 某国からレンタル料と維持管理費で膨大な血税が必要な恐ろしい子! 上野の二頭だけではなく、この町にも!? ていうか水浴びたらパンダになる中年オヤジじゃないの!? 以上! 心の声! 終了!!)」

これ以上四人(人?)に時間を割くわけにはいかない。いつもなら十四時にもなれば一段落するところだが、あいにくこの時期、ゴールデンウィークともなるとそうも言っていられない。とりあえずは無視することにした。

(無視かよ)というプラカードが視界に入ったのは多分気のせいだろう。

「Bセット2、日替わり1、できたよ!! 二番さんね!!」

店長がカウンターに料理を無造作に置く。少々いらだっているようだ。

「はい! 今行きますっ!!」

ゴールデンウィークとはいえ、さすがに夕方ごろにもなれば客足も引くだろう。そうなればこの忙しさからも開放される。あともう少しの辛抱だ。

「人生リセット1つ! 人生抜きね!!」

「(邪魔しないで ！！)」

母がデタラメな注文を厨房に向けた。「あいよー!」と声が返ってきたので慌てて止めに入った。母は顔を向け小さく舌を出していた。がっでむ。

気を取り直し、二番テーブルに料理を運ぶ。

「お待たせいたしました。Bセットの……」

「イヤーン! まいっちゃんぐう!!」

父だった。

終わり

(後書き)

このお話は元バイトの後輩のoms - V君オムスウイとリレー小説を行なった
ものです。

今回が初めて小説を書く彼ですが、あまりにもちゃんと書けていた
のでかなり嫉妬しました。(初めての小説がリレー小説ってどうな
の?ってという意見は無視)

昔から僕の小説にアドバイスをくれていたので、書けばできる子と
思っていました。(なんたる上から目線)

一応、約束事は三つ。GW・女子高生・「がっでむ」から始めるで
した。

しばらくは練習をたまに載せることにします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0097t/>

誤来店

2011年10月3日17時27分発行